

表紙, 目次, 通信, 雑報

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38079

大正五年三月十日發行
參月拾參日



十全會雜誌

卷一十二第
號三第
(號二十二百第)

全澤醫學專門學校十全會

十全會雜誌(第二十一卷第二號)目次

○原著及實驗

- 青酸加里銅鹽ハ果シテ結核菌發育ヲ制限スル力アリヤ。
Wird die Entwicklung der Tuberkelbacillen
durch die Wirkung von Cuprum cyanid
cyankali gehemmt?

東京醫科大學生理學教室

竹中繁次郎

○通信

- 神戸七日會通信。●中田秀貞氏通信。●細川孝一氏通信。●砂川茂男氏通信。●安達敬智、水口哲三氏通信。

○雜報

- 講話例會

○會告

- 校外特別會員會費納付調書。
- 大正五年度金澤醫學專門學校十全會收入豫算書。
- 大正五年度金澤醫學專門學校十全會支出豫算書。
- 大正五年度金澤醫學專門學校十全會臨時費支出豫算書。
- 大正五年度金澤醫學專門學校々外特別會員會費收入豫算書。
- 大正五年度金澤醫學專門學校々外特別會員會費支出豫算書。
- 創立二十五年記念館寄付金第十九回報告。

○廣告

- 山崎教授在職貳拾年祝賀會寄附金第二回報告。
- 山崎教授在職貳拾年祝賀會寄附金第一回報告正誤表。
- 山崎教授在職貳拾年祝賀會寄附金第三回報告。
- 上田教授在職記念品贈呈酬金第三回報告。
- 佐々木教授在職記念品贈呈酬金決算報告。
- 金子博士在職參拾年祝賀會趣意書。
- 金子博士在職參拾年祝賀會寄附金申込第一回報告。



兒 玉 博 士

兒玉博士畧歴

明治九年三月廿四日 長野縣埴科郡戸倉村ニ生ル。
 全 二十五年四月 濟生學舎ニ入學廿七年卒業。
 全 十月 醫術開業試験ニ及第。
 全 二十八年五月 醫術開業免狀下附。
 全 二十九年十一月 臺灣公醫拜命、全三十三年三月辭職。
 全 三十二年九月 東京醫科大學衛生學選科へ入學、全三十四年九月迄專攻。
 全 三十四年十月 全大學衛生學教室介補拜命、三十六年五月辭職。
 全 三十六年六月 東京市衛生試驗所技師拜命、全四十四年五月休職。
 全 四十四年五月 四十四年五月迄日本齒科醫學專門學校教授囑託。
 全 四十四年五月 東京市ヨリ獨逸下レステン市ニ開催ノ萬國衛生博覽會ノ狀況及衛生事項視察ノ命ヲ受ク。
 全 四十四年六月 私費ヲ以テ獨逸國留學ノ途ニ上リ全十月、ストラスブルヒ大學ニ入學、大正二年二月迄ウィレンフート博士ニ就テ衛生、細菌學及免疫學ヲ專攻ス。
 全 四十四年九月 東京市ヨリ獨逸下水道ノ衛生調査ノ命ヲ受ク。
 大正二年三月 歸朝
 全 五年二月十四日 醫學博士學位授與

學位請求主論文

一、炭疽熱菌ニ對スル先天免疫原理(獨文)附、「カプセル」ノ成立。(本體及性質)

參考論文

- 一、寒天斜面培養ニ於ケル炭疽熱菌ノ「カプセル」形成ニ就テ。(獨文)
- 一、「カヒア(他ノ魚卵ト)ノ鑑識。(獨文)
- 一、馬肉蛋白ノ「アンチゲン」性ニ對スル種々ナル稠度ノ亞爾爾保兒ノ作用ニ就テ。(獨文)
- 一、小兒及大人ノ外尿道疾患ニ關スル細菌學の知見。(ドクトル)クラスノゴルスキ共著(獨文)
- 一、水製臟器浸出毒ノ化學的性質ニ就テ。(プリワートドチエント)「ドクトル」ドルト共著(獨文)
- 一、殺滅「トリパノソーマ」ニ由ル免疫法ノ疑問ニ關スル補遺。(青木薫共著)(獨文)
- 一、本年(明治廿六年)東京市ニ於ケル疑似虎列刺患者ノ糞便ヨリ得タル「ワイブリア」ニ就テ。(邦文)
- 一、放線狀集落菌ニ就テ。(醫學博士遠山椿吉共著)(邦文)
- 一、動物體内ニ於ケル虎列刺菌凝集素ノ形成部位ニ就テ。(邦文)
- 一、微生物ノ異染體ニ就テ。(邦文)
- 一、「ベスト」菌ノ形態ニ就テ。(邦文)
- 一、所謂脚氣菌ニ就テ。(邦文)
- 一、肺炎球菌ノ研究。(邦文)
- 一、東京市ノ堀井水及淨水ノ腸窒扶斯菌及大腸菌ノ試驗成績。(早野實共著)(邦文)
- 一、性別反應ノ研究。(「ゲハイムラート、フロフキツソール」ウィレンフート共著)(邦文)
- 一、微毒患者ノ血清沈降性ニ就テ。(第一回報告)(邦文)

zu Rom. 1912.

3. Meissen, Zeitschr. f. Tuberculose. Bd., XXI. 1913.

4. R. Koch, Internationaler medizinischer Kongress. 1890.

5. Riebet, Bioch. Zeitschr. Bd. XI. 1908.

6. Pastew, und Oppenheimer, Die Fermente u. ihre Wirkungen. 1900, Allgem. u. spec. Teil.

通信

●神戸七日會通信

世は一轉今や新しく大正五年の春を迎へ申候會員諸氏愈々御多祥各所に健腕を發揮せられ候事大賀の至りに存候陳者吾神戸七日會に於ては屠蘇の味いまだ忘れぬ十六日新年集會を湊川料亭柳に催し申候會する者十六名、夜七時開會、年の始めの芽出度喜しきに加へ心をきなき集いこて愉快此上もなく和氣霽々意氣津々酔ふて解散仕り候は十一時過。實に近來稀有の盛會に御座候ひき。

目下會員左の如くに御座候。

職名	姓名	卒業年次
開業 (一般)	湯本求真	(不明)
全 (内科)	駒井定哉	明治三四

縣立神戸病院内科 淺利義治 三八
 川崎造船所醫局長 松尾等 三八
 開業 (一般) 關啓次郎 三八
 開業 (一般) 山下銀吾 三八
 開業 (眼科) 柴原外男 三九
 開業 (耳鼻咽喉科) 木下倉太郎 四四
 縣立神戸病院 (眼科) 土井榮幸 四四
 川崎造船所分工場 齋藤眞一 四四
 縣立神戸病院 (外科) 楠野末太郎 大正元年
 日本海員救濟會神戸支部病院内科 古屋菊男 大、元
 縣立神戸病院 (小兒科) 山川匡男 大、元
 縣立神戸病院 (小兒科) 橋本正雄 大、三
 縣立神戸病院 (耳鼻喉科) 後藤俊一 大、三
 大阪商船會社 伊藤忠一 大、三
 攝津病院 (内科) 松田喜作 大、四
 攝津病院 (内科) 高橋隆三 大、三
 長尾小兒科院 棚橋精 大、四
 縣立神戸病院 (眼科) 大谷顯治 大正
 縣立神戸病院 (耳鼻喉科) 増田悦 大正

▲松原教授歡迎會

恩師松原教授御來神！の飛報は二月五日先づ攝津病院を経て吾神戸病院幾多門下生の鼓膜に欣喜の震動を傳へたのであつた、久しぶり恩師の溫容に接し得べき好機を捉へ得た事をそんなに喜んでアロー、即御多忙な御旅行中乍ら數時聲咳に接し度乞ふて小宴を楠社内水新で開く事さした會する者駒井、淺利、木下、土井、楠野、古屋、橋本、高橋、大谷、増田、山川之に大阪より供せられし山田氏の列席せられたのは喜しかつた、五時開

會名殘借しく八時半御見送りするまで昔を偲び今を語り和氣滿々、快談に時の過ぐるのを知らなかつた。

●中田秀貞氏通信

(大正元年度卒業。十全會宛)

小生の緒方病院内科へ轉科の件も目下内科に欠員無き爲め種々交渉の結果も不成効に終り偶々播州高砂町三菱製紙會社に從來の醫局を擴張政し度内科醫を要する由語有りし爲め院長も愚生に御勧めに相成り一度當所に參り實地を探り候ひしに工場は大工場にて職工社員及其家族にて二千有餘に上る由にて在來の一人の方のみにては手も廻り兼ねる爲め内外科により立す由にて會社も確實なり又院長の媒介に候へば内科の獨修には好都合と心得當所に赴任致す可く決定仕り本月十三日頃出發に決定仕り候又昨日は市衛生試験所に北豐吉所長を尋ね申候に何時も相變らずの御勉強には生等書生の感心の至りに御座候。(後署)

一月十一日

兵庫縣加古郡高砂町
三菱製紙會社内醫局

中田 秀 貞

●細川孝一氏通信

(大正二年度卒業。十全會宛)

(前署)東京鐵道病院日本常盤病院と稱せしも昨年四月現在の名を改め官立と相成りしものに候目下芝公園近傍に新築工事中本年四月頃移轉の運びの由に御座候院内組織、職員其他の事項は別紙の如く其後職員等多少變更は有之候

外來患者は日々約二百數十名、中外科患者最も多數に御座候入院患者は六十名程有之候

内科的患者は日々四五十名多き時には六、七十位のもの、種類は比較的單純に御座候病院の性質上外傷性神經症中々多く御座候其他健康診斷日々平均十名位有之候兼ねて當院外科に母校出身者上木隆基氏(明治四十一年度卒業)在職いたされ候ひしも昨年四月神戸鐵道病院へ轉任いたされ申候

一月二十日

東京市丸ノ内、東京鐵道病院内

細川 孝 一

東京鐵道病院

一 醫病院組織

東京鐵道病院は鐵道院の職員、其家族並に旅客を診療する所であります。位置は東京丸の内吳服橋内で、電車停留場永樂町(東京停車場北口)の所に有ます内科、外科、眼科、耳鼻咽喉科と皮膚泌尿科の五科に分れ、各専門の醫師が受持ちて居ります。

二 職員

院長以下の職員は左の通りであります。

院長	醫學士	栗本 庸勝
事務長		竹内 兼元
内科	顧問	醫學博士 青山 胤通
	醫長	醫學士 井村 英次郎
	醫員	醫學得業士 加藤 義三
	醫員	千葉醫學士 吉村 實五郎
	醫員	金澤醫學士 細川 孝一
	醫員	醫學士 櫻井 久一

外科

顧問 醫學博士 佐藤 三吉
醫長 醫學士 內藤 樂

醫員 醫學士 氣賀澤 猛保

醫員 醫學得業士 深堀 清彦

醫員 醫學士 所 秀造

醫員 京都醫學士 佐野 專三

醫員 京都醫學士 高川 秀夫

醫長 醫學博士 山口 秀高

醫員 醫學士 肥田 野行

醫員 醫學士 小寺 彌彦

醫長 ドクトル 笠 茂掃部

醫員 慈惠醫學士 小田 切浩

醫長 醫學士 梅津 小次郎

醫員 千葉醫學士 矢 花 薰

藥劑長 藥學士 加藤 恭

耳鼻咽喉科

皮膚泌尿科

鐵道院職員で、公務の爲に負傷した者又は疾病に罹りたる者を、第一種と名付けて料金をとります。

旅客の傷病者を第二種と名付け、職員と其家族の患者を第三種と名づけ、後記の料金で治療を致します。

三 患者

第一種 患者には、病院から無賃乗車證又は車馬賃を出します。

第三種 患者は鐵道醫の證明があれば、所屬長に無賃乗車證を請求することが出来ます。重症者で歩行が自由でないものと幼児等では附添人一名を限り、無賃乗車證を受くることが出来ます。

一度診察を受けた患者には、當院から證明書を出します。これによりて所

屬長に無賃乗車證を請求することが出来ます。

五 診 療

診察を受けたい方には病院受付で、診察券を上げます、職員とか家族とか云ふ、證明書の様なものは入ません。

公傷者の外は當分往診を致しません。

入院なされたい方は豫め電話でも、病室の明きがあるか問合せられた上で、診察を受けられた方が宜しくあります。電話は本局一〇二〇番と本局五四八〇番に願ひます。

診察時間は當分の内、左の通りであります。但し急患者は此限りではありません。

受 付 午前八時から同十一時まで

診 療 午前九時から

但眼科醫長の診察は一時からで、二時まで受付致します。

顧問青山、佐藤兩博士の診察は毎月第三金曜日午後三時からあります。

午後二時までに外出を願ひます。

種痘は毎日、午後二時から四時まで致します。

身體検査は診察時間内に受け付けます。鐵道職員で所屬長の需めに依るものは、無料で致します。

六 料 金

入院料は十日、廿日と纏めて通知書を發しますから、その際納入を願ひます。打切期日以前退院なさるゝ方は其際納入を願ひます。外來料金は現金ですが、鐵道職員に限り、鐵道院の給料支拂日まで、延期する方法もあります。

一 等 金貳 圓

二 等 金壹圓貳拾錢

入 院 料

三 等 金八 拾 錢

大	手術料	金參圓以上	中	金五拾錢以上
小	金貳拾錢以上			
	處置料			
特	金五拾錢以上	甲	金參拾錢	
乙	金貳拾錢	丙	金拾五錢	
丁	金拾錢	戊	金八錢	
巳	金五錢			
內用藥	一種一日分			
頓服藥	一劑分	判任官以上	金拾錢	
坐藥	一個	雇員以下	金八錢	
吸入	劑	金參錢		
含嗽	劑			
罨法	劑			
洗滌	劑			
灌腸	劑			
散布	劑	金拾錢		
軟膏	劑			
點眼	劑			
塗布	劑			
硬膏	劑			
酒精	其他特別罨法			
特別診斷書料	金拾錢			
特別診斷書料	金五拾錢以上			

檢案書、死亡書料	金貳拾錢
體格檢查料	金貳拾錢
處方箋料	金貳拾錢
咯痰、尿其他檢查料	金貳拾錢
證明書料	金拾錢
特別證明書料	金五拾錢以上
血液檢查料	金壹圓
飲料水及一般食物試驗料	金五拾錢以上
牛乳ノ比重、脂肪試驗料	金貳拾錢
藥容器	
投藥瓶一個二付	金壹錢以上
點眼瓶一個二付	金參錢以上
膏藥壺一個二付	金壹錢以上
齒科技工料	
金床義齒一個所一齒	金九圓六拾錢
金床義齒一個所二齒以上一齒	金四圓八拾錢
金冠大	金六圓
金冠中	金四圓八拾錢
金冠小	金四圓貳拾錢
架工齒小(前齒又ハ小臼齒)	金四圓八拾錢
架工齒大(大白齒)	金四圓八拾錢
金裏裝繼續齒	金四圓八拾錢
銀裏裝繼續齒	金壹圓五拾錢
銀冠大	金七拾錢
銀冠小	金五拾錢
甲種義齒一個所一齒	金壹圓貳拾錢

甲種義齒二齒以上二齒	金八拾錢
ゴム床用金填塞齒大	金貳圓五拾錢
同 小	金壹圓七拾錢
矯 正 用 裝 置	金壹圓五拾錢
乙種義齒(一個所一齒)	金六拾錢
乙種義齒(二齒以上一齒)	金貳拾錢
乙種上顎總齒	金貳圓四拾錢
乙種下顎總齒	金貳圓四拾錢
乙種上下顎總齒	金四圓八拾錢
金 鉤 大	金貳圓
金 鉤 小	金壹圓貳拾錢
修理(ゴム床補綴)	自金參拾錢至金壹圓五拾錢
金床用金填塞齒 大	金參圓五拾錢
金填塞齒 小	金貳圓五拾錢
舶來上總齒	金拾圓八拾錢
舶來下總齒	金拾圓八拾錢
舶來上下總齒	金貳拾壹圓六拾錢
修 理 甲	金壹圓五拾錢
同 乙	金壹圓貳拾錢
同 丙	金壹圓
同 丁	金七拾錢
同 戊	金五拾錢
同 己	金參拾錢
附添看護料	金五拾錢以上
附添看護婦料 一日ニ付	金五拾錢以上
患者二人以上ノ附添看護料	患者一人ヲ増ス毎ニ本料金ノ二割増

乳兒携帶患者附添看護料 乳兒一人ヲ増ス毎ニ料金ノ二割増
 附添夜具貸付料夜具一夜ニ付 金四拾錢

記 事

- 一、内外用藥中の高價藥は實費額を徴收することあるべし
- 二、外來者賄料一食に付金拾貳錢以上
- 三、滋養品及療養品料は時價

●砂川茂男氏通信

(大正二年卒業。十全會宛)

(前畧)何處も同じ軍隊生活さては別に珍らしき事も無之筆探る勇氣もなく
 つい今日まで御無沙汰致し候處今拙筆を顧みず思ひ及びし儘左に伏
 見の近況認め申候借て迂生も今や一ケ年の兵役義務を終へ目下豫備看護長
 の階級にて第一次勤務演習に服務致し居候迂生の同年兵にて母校醫學科出
 身者は江龍一彦、西本松三郎、佐野外男、八島修、佐々木文三の諸氏に御
 座候此の連中皆々見事に一年志願兵終末試験に及第致され目下同じく勤務
 演習に服し居られ候一同健在にて元氣旺盛に御座候尙ほ他に他校出身の同
 僚五名有之總勢十一名にて聯隊醫務室も中々賑やかに有之候目下當聯隊附
 軍醫として安江芳雄、野村義章両氏にも日々顔を合せ居り候かく純金澤産
 や金澤を第二郷里と考へなる連中多く寄合ふたる事に候へば金澤辯も遠慮
 なく通用致し居候

迂生等も昨今は入營當初と異り自ら餘裕も生じ萬事呑氣と相成候へば時に
 は窓越しにストロアの側より身に沁む愛宕風の吹き荒ぶ營庭内に初年兵の
 熱心に軍人精神を練りつゝある各個教練を眺め一年前の今日を偲び感慨無
 量に御座候今同新に入營されし母校出身の諸君も二、三名在隊切角毎日の
 練兵に身体を鍛へ居らるゝ筈に御座候いづれ此の六月襟章更と同時に醫務

室に通勤する様に相成候までは一方ならぬ苦勞と同情に堪はず候迂生等も最早此勤務演習期間の丁度中ばを過し殘るは僅かに後一ヶ月半と相成申候一年有三月後久し振りにて郷里の風光に親しみ鴻恩蒙れる諸先生初め舊友知人の温情に接し得るかを思へば昨日今日は一、二日千秋の思に御座候昨今衛生部員は野外に出る場合少く候へば閑暇を利用致し教育擔任軍醫殿の御指導の元に雜誌抄讀會、獨乙語研究など催し居候其他迂生としては格別なるアルバイトも致さず耻入る次第に御座候迂生は同室の同僚二人と起床と共に致し日々喇叭の號音にて六時半起床九時消燈の日課時限を繰り返し夜は毛布の内に納り愚人は愚事の錯雜を夢むといふ言葉を遺憾なく實行致し居候。(後署)

大正五年一月十六日

伏見歩兵第三十八聯隊第十中隊
豫備陸軍二等看護長
砂川茂男

●安達敬智、水口哲三氏通信

(大正二年度卒業。十全會宛)

愚生等卒業後此の地に三春を迎へ候も別になす事もなく徒に食を喰むのみ實に慙愧の至りに御座候當市には母校出身者は生等のみ只た近村に諸橋林太郎氏並に藤井最正氏あるのみ從て胸襟を開き共に談ずるの友なく僅に右二氏と稀に申越醫學會(當市並に附近醫師よりなる)にて御目にかゝる機ある位に候歐洲戰亂の結果藥價暴騰し一般醫師困難は引いて病院にも及び候然し本年は比較的況氣良き様に思はれ候。(後署)

二月一日

越後長岡病院

安達敬智
水口哲三

●講話例會 (大正五年二月五日)

改春第一の講話例會は大講堂に於て開かれた。「南地寒く北陸暖し」てふ記事を新聞紙上に見出した本年、例年稀な好日和の打續き殆んど春景色春心地の今日ではあるけれども、矢張北國の冬も最中而も暖爐の設備なき大講堂は仲々に寒かつた。然し聽衆に一人の中座するものもなく家族的の會合は殆んど寒さを感ずるなく時の過ぐるを知らぬ計りの興の中に終ることを得たのである。

一、開會の辭 須藤部長

一、自由國民と宗教 近藤政義君

社會道德の腐敗を救ふは一方法として自由國民と自覺したる吾人の宗教にあり吾人は現今に於ける宗教は國家を基礎とし總ての宗教の長所を集めて以つて打つて一丸となし積極的に立てるものならざるべからず。如斯宗教より得たる眞の信仰こそ現今我國家社會を救ふに足るべけれ吾人はこの唱導者の一日も早く出んことを冀ふものなり。(自抄)

一、良醫 藤野幸太郎君

良醫は徳高く學識技術應用に富み尙身體健全なるを要す(以上自抄)と論題の説明の下に滔々論じ遣り論じ來り遂に良醫たれと結べる。論中弓道鼓吹(?)は君が弓道部委員としての言益し聽衆に持てたる所以かれ。

一、紳士たれ 上出成之君

吾々高等教育を受けつゝあるものは紳士と成るべきものである。故に紳士の修養を要すといふ骨子盛んに吾々の欠点を指摘し元氣當るべからず益々此の元氣を、發揮して勿撓だ。

一、心の力

中島 鏡 雄君

病は暗示によりて藥物なくして、治することあるが如く吾々は心の持ち様により凡ての事をなし得るものだと思ふ。吾々が大學生を壓倒するには自ら大醫たる信念——心の力を要するのである。彼も醫學を學ぶ我と同じく四年間ではあるまいか、諸君、心の力だ、日蓮、基督の心の力——大なる念主義！我は神の子なり神は我が羊牧者なりとの感を以て進む所の宗教的修養！嗚呼必要ではありまんか。(自抄)

一、時局と化學工業

小林 實君

今や歐洲戰亂の爲め輸入品就中化學品は全く輸入杜絶の状態となつたで一方苦痛を感じると共に一方我製造業——化學工業の會社には壓倒を受けぬこととなつて發展の道を得たものもある。之道筋を逐一實例に就て話れた確に快辨であつた。

一、偶 感

仲井 芳 雄君

我校には故意にか間違か下駄、傘の紛失する事多し。事たるや鎖細なるも僅かの利己心より總ての人々に迷惑を及ぼす罪や憎む可し。苟も北陸最高の學府にあり最高の學問を學ぶ我々學生間に斯る忌々しき事の行はるゝは實に慨歎の至りならずや。一視同仁の眼を以て冷く社會に對すべき醫者たらんとする我等は大に反省して可なりと思考するものなり。(自抄)

一、現代人類 (自抄)

坂東 三 範君

哲學は餘りに進み過ぎたり而して人類學を究めず人生學に務めたり遂に人生の實在に入る能はざりき人生を餘りに超然せしめたり。自然界に於ける人類の位置はハックスレーによりて衰れにも暴露されぬ。人類は今や萬物の靈長ならず、高等動物の一たるに過ぎず。猿類と其の祖

を同じうす。

イユゼニックスは神によりて成らず、實驗科學によりて成るべきものなり。

一、麻疹と其尿のワイス氏「ツロクロモ」

島 誠 郁氏

「ゲン」反應に就て

氏は廿八例に就て御研究のあま御發表ありたり。(兒科雜誌に御發表の由)

一、所 感

須藤 憲 三氏

閣下並に諸君！ 私は去廿七日十全會豫算會議に際して得たる所感の一斑を茲に御話致したいと思ふ。當日本會各部より提出せられたる豫算請求額は總計二千四百四十餘圓であつた。然るに校内會員の會費が一千七百餘圓であるから、到底各部の希望を満す事が出来ぬと云ふので、幹部に於ては夫れ々調査の結果、豫算案を編成されたのである。そこで、此案に就て多小議論が起り、經費の取合が始まつた。併し他部の欠点を指摘して其請求額を削除すること云ふことは中々容易でない。此際私は大要次の意味に於て發言した。元來各部委員は各其の所要額を正直に請求したのであらう、且つ本年度に於ては相模及遠足の二部が新に加へられた爲に、次年度豫算は先年度に比して却て減額せられたのである(本年度は學期短縮の爲豫算にも相違があるから、先年度と比較した)。此上剩餘を指摘して刪減を施し、之を自分の方に取込むと云ふことは容易でない。去りさて會費の總額は前陳の通りである。即ち各部をして満足せしめ得ざるのみならず、今後は却て縮小態に於て我慢せねばならぬ事に成つたのである。で、若し各部の要求が不當でなく、且つ此の一部たりとも容るゝ様にするならば、先つ會費増額が先決問題であらう。然るに之に就て種々議論が起つた。其要旨はこうであつた。會費増額は重大問題である、それで先つ各部が充分に節約するがよい。講話部に於て菓子を喫するが如きは不賛成である。此の餘裕を同部が新に要求したる辯士派遣なり、何なりの方面に用ゐ、そして一ヶ月年間形勢を翻たらよからう。又他論者の説では、會費増額に對し

ては絶対に反対である、何々部の如きは本校に不向である、従て之れを廢止したら宜からう、講話部に於て菓子を喫することは不賛成である、某部に於ては「メタル」の配布宜しきを得ぬ、金の使用宜しきを得ぬ所もあると云ふ意味の話も出た。で結局會費増額の件を附議することを中止し、原案のまゝ通過せしむることに決し、此の會を了つたのである。

成程論者の説の如く、各部共浪費に注意することは頗る肝要である。併し乍ら之れには夫れ／＼程度があらう、餘りに經費の点にのみを云々すると、動もすれば仕事が消極的に流るゝの嫌があるまいか。

我講話部に於ける喫菓制を廢すること一説である。併し乍ら、從來やり來つた卒業生送別會に於ける茶菓を廢すると云ふ譯にも行くまいかと思ふ。してみると、從來の大會に於て費したる菓子代は二十五圓内外であり、來年度に於ては前年度に比して十九圓を削減せられたのであるから、結局菓子代を節約しても、剩す所は僅々六圓程である。此金額を以て新要求を充たすことは不可能である。元より六圓たりとも大なる節約に相違ない。他部に於て幾何金を節約し得るか、予輩の知らぬ所であるが、矢張り我講話部と大同小異の關係ではあるまいか、幾分餘裕のある部もあらうが、亦其の反對に随分窮乏を告げている部門もあるやうである。結局會費増額に幾分考慮の餘裕がある様に思はるゝ。小々事に力を入れ過ぎた嫌はあつたが、當時に於ける感想はこゝであつた。

次に述べたいと思ふのは、先日會議には直接關係なき事ではあるが、會議のある瞬間に於て會費云々の点より思起つたことがある。是れは我十全會の發展策である。本會には數多の部門があるが、就中外界に對して最も重要なものは雜誌部である。本年度に於ける同部の經費は五百七十七圓餘で、内雜誌印刷費は四百二十二圓餘である。僅々五百圓に足らぬ費用を以て年十二回の雜誌を發行し、二千に垂んとする會員に配布しやうと云ふのである。同部々々を始め、部員諸君が如何に熱心に盡力されても、經費の

都合上、到底充分なるものを作り得る道理はない。それは他學會の會費を觀れば一目瞭然である。即ち現今に於ける十全會々々なるものは、實に一學會の會費だにも充たぬ有様である。此會費を以て雜誌外九部門を盛大に、且つ圓滑に運轉しやうと云ふのである。下らぬ所に會費を使用することは勿論慎むべきではあるが、叙上の會費のみを以て充分に雜誌其他をやつて行かうと云ふことは決して容易でない、否、寧ろ不可能であらうと思ふ。で我講話部に於ける喫菓の如きは、若し會員諸君の大部分が不賛成とあらば、元より從來の慣例を打破することに躊躇せぬ。併し之れも考へ様で、可ともなく、不可ともなるのであるから、諸君の御熟考を願つた上にて何れとも決したいと思ふ。それは置き、ご一しても十全會雜誌の存在をも一少し日本國內に知らしめたいと思ふ。事實上、誠に遺憾ではあるが、我雜誌は學界よりは殆んど其の存在を認められぬ様である。即ち有力なる學會雜誌と満足に交換が出来ぬらしく見受けらるゝのではないか。是れ實に其内容の然らしむる爲であることは一点の疑もない。

鳥辭がましくはあるが、其の發展策としては、ご一しても内容を充實せしむるの他ないのである。勿論學藝に没交渉の記事を如何に増加すとも、鼎の輕重に影響せぬ、有益なる學説・實驗等苟くも學藝に關係ある記事の充實が、やがて萬鈞の重を爲す所以である。此目的を達することは云ふは易くして、行ふは難いである。實に斯く云ふ本人も、いざとなると全然無資格であるが、併し此理想を以て前進することは我十全會の最大義務ではあるまいか。而して雜誌内容の充實は、實に會員諸君の熱心なる研究心の發露に依りて始めて達し得らるゝものなることは云ふ迄もない。然らば之れを實現するには如何にすべきであるか。之れは慎重に考へた後に決すべきではあるが、先づ研究業績と云ふても、さう急劇に、今が今と云ふ譯には行かぬのであるから、差當り實行し得やうと思ふのは、此雜誌に *Zeitung* *Abhandl. für gesante Medizin* の態を加味し、新事實を紹介することであら

うと思ふ。而して各教室に於ける研究を奨励し、盛んに投稿せしめ、大に學術雜誌の体面を全からしむることに務むるのである。會費増額に對して絕對に反對の御意見もあつたが、現状維持即ち本會雜誌を單純なる校友會誌とし、主として思想の交換や、會員の動靜等を報告するのみに止むるゝあらば、それも一理で又一法であるが、本會の方針としては予の採らざる所である。少くとも將來雜誌部の經費を數倍加するの必要があると思ふ。然らずんば到底本邦學界に重きを爲し得ぬであらう。最も本會幹部に於ては、之れ等に關し、業に既に充分なる御調策あることであらう、從て予の考の如きは全然一種の杞憂に過ぎぬではあらうが、併し此事たる會員全部の同心、協力を要することであるから、愚考の一斑を述べて、先進諸賢並に會員諸君の御清聽を煩はした次第である。

一、藥物療法の原理

田村 教授

先づ Localisation (Virchow), Organotrophie (Fehlich), Spelabern (Hans meyer) を挙げられ例をあげて説明せらる。藥物が奏効したと云ふ事は或る臓器の生理的官能を其必要に應じて亢進せしめ、又抑制せしめて其目的が達せられた時である。所が薬に依つては或る一定の臓器にのみ限り作用するものあり、「モルヒネ」「青酸」「チキタリス」等につき一々其作用を説明せられ、麻醉薬の「リポイドテカリ」はある分配係数を以て「リポイド」含有量の多き脳神経系統に働く例をあげて述べられ、次で「ムスカリン」「ヒスタミン」は共に心臓筋細胞に働くが自ら差異あるが如く薬の奏効の原理が一定しない常に變遷して居る、藥劑に限らず總てゲダングと云ふものは其進行中變つて行く、從てそれから藥かれたるテカリは自ら變つて行く其の間に一種の面白味があると言言せられ學生時代に教はつたテカリは常に満足すべきものでない。諸君は時々刻々變遷して行く斯界の風潮、新知識の探究を怠たつてはならぬと、注意を興へられたり。所謂爲になる話とて異口同音深く感謝するところ也。

一、衛生講話の原理

福士 教授

先生睿智に丈け給ふば萬人の認むる所演題は未定なりし所なるが、田村教授演題形式を型取つて聴衆の人氣を一身に集中し愈々其の原理を説明せらる。「肺臓病變を來し瓦斯交換完からず遂に窒息死を來す」ではだめだ「肺がクサツテイキが十分出來ぬやうになり遂にイキガツマツテ死ぬ」と云へば聴く者「ナルホド」と來るてふ邊は眞に衛生講話の原理。

一、閉會之辭

須藤 教授

冬の日の黄昏れて楽しく有益なる例會はかくして終つた。

(講話部委員鶴見生)

會 告

● 自大正五年一月廿四日校外特別會員會費納付調書 至全 二月廿三日

金 額	期 限	氏 名
金貳圓六拾錢	自大正五年度 三ヶ年分	辻 岡 律殿
金壹圓也	自大正七年度 至大正四年度分	加 勢 基殿
金壹圓也	自大正五年度分	橋 本 喜久 三殿
金參圓也	自大正四年度 至大正六年度 三ヶ年分	森 田 信 雄殿

●大正五年度金澤醫學專門學校
十全會收入豫算書

科 目	豫 算 額	備 考
第一款 金澤醫學專門學校十全會	一、七四六・二六〇	
第一項 特別會員	一五二・三六〇	
第一目 職員寄附金	一五二・三六〇	
第二項 通常會員會費	一、二九五・〇〇〇	
第一目 醫學生會費	一、〇五三・五〇〇	
第二目 藥學生會費	二四一・五〇〇	
第三項 入會金	二九〇・〇〇〇	
第一目 入會金	二九〇・〇〇〇	
第四項 利金	一〇・〇〇〇	
第一目 預金利子	一〇・〇〇〇	

●大正五年度金澤醫學專門學校
十全會支出豫算書

科 目	豫 算 額	備 考
經常部		
第一款 金澤醫學專門學校十全會	一、〇六六・二六〇	
第一項 春季陸上運動會	一五〇・〇〇〇	

第一目 同上	一五〇・〇〇〇
第二項 講話部	七〇・〇〇〇
第一目 大會費	七〇・〇〇〇
第二目 通常會費	三・〇〇〇
第三項 雜誌部	五七・〇〇〇
第一目 雜誌費	四三・七〇〇
第二目 圖書費	一三・三〇〇
第三目 通信費	一五・〇〇〇
第四目 消耗品費	七・二〇〇
第五目 製本費	一〇・六〇〇
第六目 雜費	一・一〇〇
第七目 電燈費	四四・〇〇〇
第四項 ロンテニス部費	八〇・〇〇〇
第一目 部費	六〇・〇〇〇
第二目 大會費	一五・〇〇〇
第五項 劍道部	五〇・〇〇〇
第一目 大會費	一七・〇〇〇
第二目 獎勵費	三三・〇〇〇
第六項 柔道部	五〇・〇〇〇
第一目 大會費	一七・〇〇〇
第二目 獎勵費	三三・〇〇〇

第七項 弓術部	第一目 大會費	五〇・〇〇〇
	第二目 備品費	一五・〇〇〇
	第三目 獎勵費	三三・〇〇〇
第八項 野球部	第一目 部費	一七・〇〇〇
	第二目 大會費	一四〇・〇〇〇
第九項 相撲部	第一目 部費	六〇・〇〇〇
	第二目 大會費	一五・〇〇〇
第十項 遠足部	第一目 部費	五五・〇〇〇
	第二目 大會費	八〇・〇〇〇
第十項 遠足部	第一目 部費	一五・〇〇〇
	第二目 大會費	二〇・〇〇〇
第十一項 會務費	第一目 當	二〇・〇〇〇
	第二目 教師囑託手	三六・五〇〇
	第三目 印刷費	一六・〇〇〇
	第四目 消耗品費	二〇・〇〇〇
	第五目 雜費	〇・五〇〇
第十二項 學術實習部	第一目 藥品材料費	五・〇〇〇
	第二目 備品費	五・〇〇〇
	第三目 藥品材料費	五・〇〇〇
	第四目 備品費	五・〇〇〇
	第五目 藥品材料費	五・〇〇〇
	第六目 備品費	五・〇〇〇

第三目 雜費	一〇・〇〇〇	
第七項 豫備費	八・三〇〇	
第一目 豫備費	八・三〇〇	

●大正五年度金澤醫學專門學校
十全會臨時費支出豫算書

科 目	豫算額	備考
臨時部		
第一款 金澤醫學專門學校十全會	四・〇〇〇	
第一項 相撲小屋屋根葺上ケ費	四・〇〇〇	
第一目 同上	四・〇〇〇	

●大正五年度金澤醫學專門學校
校外特別會員會費收入豫算書

科 目	豫算額	備考
第一款 金澤醫學專門學校十全會校外特別會員會費	一、二九六・六	
第一項 校外特別會員會費	九七・八〇〇	
第一目 大正五年度會費	八六・八〇〇	
第二目 前年度未納會費	三・〇〇〇	

第三項 前納會費	一五〇〇〇	
第二項 利 金	一〇・八〇	
第一項 預金利息	一〇・八〇	
第三項 繰 越 金	六〇〇〇	
第一項 繰 越 金	六〇〇〇	

●大正五年度金澤醫學專門學校
校外特別會員會費支出豫算書

科 目	豫 算 額	備 考
第一欸 金澤醫學專門學校十全會校外特別會員會費	八二・六〇	
第一項 會費	八二・三〇	
第一目 雜 誌 費	三・四〇〇	
第二目 通 信 費	一七・九〇	
第一節 郵 便 電 信 費	六・七〇	
第二節 在 京 喝 託 員 通 信 料 費	一〇・〇〇	
第三節 會 費 集 金 費	元 三〇〇	
第三目 雜 費	六五・〇〇	
第二項 豫 備 費	七〇・三〇〇	
第一目 豫 備 費	七〇・三〇〇	

●創立二十五年紀念館寄附金第十九回報告
(二月二十三日迄ノ分)印ノモノハ現金領收濟ノ分)

氏 名	金 額	氏 名	金 額
中西與三太郎殿	一金參圓也	窪美 一久殿	
中谷正範殿	一金參圓也	柳 榮太郎殿	
安田順太郎殿	一金參圓也	鳥 居 環殿	
藤田藤右衛門殿	一金參圓也	大井 逸雄殿	
井 原 悟殿	一金五圓也	清水 秀夫殿	
森田信雄殿	一金參圓也	今 井 篤殿	
國田武雄殿	一金貳圓也	佐藤彌一郎殿	
仙太郎殿	一金貳圓也	本 正 生殿	
眞 下 誠殿			
金拾九圓八拾錢也			
○第二回分			
醫學科第三學年 九十九名 各金貳拾錢			
横井英太郎 垂水 正保 加藤 豐彦 中橋 賢造 廣橋 惺			
中谷林左衛門 河村 長治 毛利久五郎 高木 三郎 坂東 三範			
渡邊右馬之助 北村久太郎 富居 恒松 太田 泰造 青木 兵三			
林田 豐次 棚橋己之助 藤野幸太郎 林 眞學 横田 豐治			
窪田 忍 伊與美代丸 柿野二太郎 竹森 雅雄 川田 眞澗			
村瀨 迅策 宮本實太郎 坪川 實 高橋 一郎 村上 正徳			
織田 時平 福西 泰永 相生 銚吾 渡邊 稠雄 山本 專二			
藤田 士郎 中井 光藏 安仲 秀雄 井東 勇 毛利 元隆			
二木 太吉 加治木五郎 野澤 寛二 繁田 源信 鷺塚 政光			
山元 文吾 岡山 三郎 堀本 勇治 藤邑 左京 中村 清雄			
林 信行 柏木 正章 谷澤 碩 河合 眞治 神吉 淳			

家城 秀哲 寺田 正周 高野 喜一 岩倉 以內 中谷 三綱
 佐藤 剛 田村政太郎 中神 田積 藤原 嘉瑞 瀧上 伊織
 吉野 九郎 河瀨 孝之 船越 光彦 吉原 靜諭 岡島 俊一
 荻野 米藏 小川 退三 林 盛胤 三浦大三郎 宇佐美宗雄
 町野 民介 村田 義岡 隅越德太郎 本郷 啓 奥澤 寛次
 青山 太郎 高田 聽二 秋永 靖海 翁 久二 山崎喜代作
 宮地 勝郎 岸中 正夫 齊藤 久保 早矢仕茂吉 服部 秀雄
 土肥秀太郎 坪田 耕造 本田 盛正 赤祖父三郎 金森 順隆
 廣野加藤次 內藤 幸平 高山 茂樹 金田 靜治
 一金五拾錢 醫學科第三學年 壹名
 磯野 誠道

一金貳拾圓四拾錢也 ○第二回分

醫學科第一學年 百二名 各金貳拾錢
 石井 健 辻 二八 池田龜代士 佐藤 英一 笹井 八郎
 牧 進 藤本 熙 松本 永周 白崎 得男 辻出小在門
 中谷 正知 武部 伴吉 小口 益人 內匠登幾雄 奥田 亨吉
 植松 鏡治 渡部 綾藏 清河 吉平 垂水 二郎 原田 理藤
 大橋 彥市 今村 康信 森澤 誠一 竹中 巽 渡邊 俊清
 小島 清平 蓮井 正治 織田 正治 近藤 政義 西山 善
 勝山福次郎 小林 雅男 大野 計信 小池龍次郎 阿部 忠夫
 石塚 純 飯倉 保 水上 清之 草野隆太郎 細川 友安
 久藤賀之雄 中田 又八 野坂 勝治 林 隆衛武 大藤 熊吉
 若林 國男 川島 五郎 西條 良胤 上原 松金 森永圭太郎
 岩佐 明郎 松永 傳事 湊 育造 森本 和雄 大沼 清次
 杉村 一郎 石堂 守治 田中 興六 松尾 厚 天谷 進
 林 次郎 小野木豐俊 河村 金次 新井 甫 瘧師 行雄

網村 基行 大橋 四郎 中澤 弘恭 權出 與市 服部 章
 西川 義男 渡邊 亮 片岸 憲良 淺野 皎 橫山 實
 鈴木 英介 碓氷 清 森 三男吉 小村慎三郎 唐牛 澄
 西宮貴久男 武田 英一 佐竹 清秀 池田外喜男 宮前助三郎
 八田 吉郎 三井 博二 森田 克己 山内 虎太 河本謹一郎
 茅島 操 和田英次郎 和田 龜俊 竹松 進 本田 蘭
 岡田 耕 佐々木文平 楠本榮一郎 別所 武雄 星 清美
 大和 敦次 鈴木 四郎
 計金八拾六圓七拾錢也
 累計金四千百〇貳圓四拾五錢也

▲第十八回報告後現金領収ノ分

一金五圓也 池田 秀雄殿 一金拾圓也 村上 麻次郎殿
 一金五圓也 松田 準殿 一金參圓也 西村 貞俊殿
 一金參圓也 吉田 繁治郎殿 一金參圓也 田中 三彌殿
 一金參圓也 中野 憲吉殿 一金參圓也 福里 次吉殿
 一金壹圓也(第一) 安達 敬智殿 一金五圓也 佐々木 茂樹殿
 一金五圓也(第一) 佐藤 進殿 一金五圓也 北川 光雄殿
 一金壹圓也(第一) 水口 哲三殿 一金參圓也 伊藤 昌平殿
 一金參圓也 堀 大次郎殿 一金參圓也 上遠野 與作殿
 以上 田村 昌殿

廣告

●山崎教授在職貳拾年祝賀會寄附金第二回報告

(二月廿日迄ノ分×印ハ現金領収濟ノ分)

金額	氏名	金額	氏名
一金壹圓也	×井上 敏吉殿	一金參圓也	井上 豐作殿
一金貳圓也	×磯野 淳太郎殿	一金貳圓也	×伊藤 又吉殿
一金壹圓也	×石川 寛二殿	一金貳圓也	×石川 精一殿
一金壹圓也	岩崎 勝治殿	一金壹圓也	×市村 塘殿
一金壹圓也	×池浦 渡殿	一金壹圓也	×入江 太三郎殿
一金壹圓也	井上 元殿	一金貳圓也	石橋 四郎殿
一金貳圓也	石崎 喜一郎殿	一金壹圓也	伊藤 芳廣殿
一金壹圓也	石橋 三也殿	一金貳圓也	×岩田 高明殿
一金貳圓也	×市川 行章殿	一金壹圓也	×飯田 豐殿
一金壹圓也	×岩井 尊宗殿	一金壹圓也	生駒 廣太郎殿
一金壹圓也	池田 耕殿	一金壹圓五拾錢也	伊東 祐彦殿
一金五圓也	石川 支知殿	一金壹圓也	×石塚 禎二郎殿
一金壹圓也	×生橋 一郎殿	一金壹圓也	×岩田 利三郎殿
一金貳圓也	石原 久殿	一金壹圓也	石田 宏殿
一金壹圓也	長谷川 葛殿	一金壹圓也	×橋 茂殿
一金壹圓也	蓮村 外男殿	一金壹圓也	原田 正廣殿
一金參圓也	長谷川 淳明殿	一金壹圓也	原田 定次殿
		一金參圓也	原田 悦五郎殿
		一金貳圓也	花岡 佐太郎殿
		一金壹圓也	原 榎平殿
		一金壹圓也	林 謹一殿
		一金壹圓也	西脇 得三殿
		一金壹圓也	×西 英盛殿
		一金五圓也	西原 愛太郎殿
		一金壹圓也	×西 業求殿
		一金壹圓也	×西川 真造殿
		一金五圓也	本田 繁藏殿
		一金參圓也	堀井 勝二殿
		一金五圓也	×保利 真直殿
		一金壹圓也	×細川 兵三郎殿
		一金壹圓也	×堀 順郎殿
		一金壹圓五拾錢也	×帆足 恒雄殿
		一金壹圓也	×富田 豐咲殿
		一金壹圓也	×土肥 丈五郎殿
		一金貳圓也	×時國 良作殿
		一金五圓也	×德久 恒治殿
		一金壹圓五拾錢也	富田 直殿
		一金壹圓也	鳥居 環殿
		一金壹圓也	×登谷 保脩殿
		一金壹圓也	×中條 隆之助殿
		一金貳圓也	千葉 支也殿
		一金壹圓也	額 又大郎殿
		一金壹圓也	×鷺田 發次郎殿
		一金參圓也	英 軒二殿
		一金壹圓五拾錢也	原 伊之殿
		一金壹圓也	×秦 親真殿
		一金壹圓也	荻野 鶴治殿
		一金壹圓也	×丹羽 玄純殿
		一金壹圓也	×西川 邊殿
		一金參圓也	×西村 藥磨殿
		一金壹圓也	×西村 定俊殿
		一金壹圓也	×西 勝人殿
		一金參圓也	堀田 慎之殿
		一金壹圓也	堀井 吉平殿
		一金壹圓也	×細川 孝一殿
		一金壹圓也	本保 晃殿
		一金壹圓也	×堀 孝信殿
		一金貳圓也	堂坂 友作殿
		一金參圓也	渡嘉敷 唯精殿
		一金壹圓也	×鳥飼 尹重殿
		一金壹圓也	富澤 圭太郎殿
		一金壹圓也	×得田 易殿
		一金參圓也	富田 敦貴殿
		一金五圓也	土岐 文二郎殿
		一金壹圓也	中條 俊夫殿
		一金壹圓也	×長 外喜男殿
		一金壹圓也	×沼田 準三殿
		一金五圓也	×布村 祥殿
		一金壹圓也	×渡邊 仙岳殿

一金貳圓也	×渡邊 九壽松殿	一金壹圓也	×脇屋 誠義殿	一金壹圓也	×高木 安治殿	一金參圓也	×高山 正雄殿
一金壹圓也	×若林 忠良殿	一金貳圓也	×鷺山 他三郎殿	一金壹圓也	×田中 鉄吉殿	一金壹圓也	×内匠 益次殿
一金五圓也	×渡邊 光生殿	一金壹圓五拾錢也	×渡邊 常三郎殿	一金壹圓也	×武内 清作殿	一金參圓也	×高田 範國殿
一金壹圓也	×渡邊 宗一郎殿	一金貳圓也	×河崎 有作殿	一金壹圓也	×高辻 喜作殿	一金壹圓也	×辰巳 佐吉郎殿
一金壹圓也	×鹿野 重太郎殿	一金壹圓也	×河合 義文殿	一金參圓也	×高橋 貞碩殿	一金壹圓也	×高橋 和男殿
一金壹圓也	×笠間 儀三郎殿	一金貳圓也	×加藤 慶三殿	一金參圓也	×高山 尙平殿	一金參圓也	×竹田 忍殿
一金壹圓也	×金森 順劑殿	一金壹圓也	×河村 多郎殿	一金貳圓也	×田代 正殿	一金壹圓也	×田中 元秀殿
一金壹圓也	×金田 鬼一殿	一金貳圓也	×韓 清泉殿	一金壹圓也	×田口 泰殿	一金壹圓也	×高岡 榮殿
一金壹圓也	×柏田 茂殿	一金壹圓也	×河崎 爲直殿	一金貳圓也	×辰巳 禮造殿	一金壹圓也	×竹重 信次殿
一金壹圓也	×加瀬 順之助殿	一金參圓也	×金岡 清彦殿	一金壹圓也	×高澤 冠一殿	一金貳圓也	×田村 實殿
一金壹圓也	×輕部 修一殿	一金參圓也	×河合 利正殿	一金參圓也	×谷道 清殿	一金壹圓也	×高橋 善三郎殿
一金壹圓也	×勝谷 德三郎殿	一金壹圓也	×加藤 敏作殿	一金壹圓也	×高橋 周而殿	一金壹圓也	×田原 利崇殿
一金五圓也	×梶川 甚一殿	一金壹圓也	×川村 二郎殿	一金壹圓也	×高田 咩安殿	一金貳圓也	×谷 龍藏殿
一金貳圓也	×勝田 量平殿	一金壹圓也	×勝田 ナヲ殿	一金壹圓也	×谷口 長松殿	一金壹圓也	×武田 重成殿
一金壹圓也	×鎌田 勘之助殿	一金壹圓也	×賀川 見龍殿	一金壹圓也	×田中 三瀨殿	一金貳圓也	×田中 大太郎殿
一金壹圓五拾錢也	×河村 宗作殿	一金壹圓也	×加藤 錠吉殿	一金壹圓也	×竹村 茂三殿	一金壹圓五拾錢也	×谷口 章三殿
一金參圓也	×風野 信介殿	一金壹圓也	×開發 仁十郎殿	一金拾圓也	×田中 正一殿	一金壹圓也	×高田 彌三郎殿
一金壹圓也	×神坂 勇治殿	一金貳圓也	×金子 太須計殿	一金貳圓也	×厲 家福殿	一金壹圓也	×曾田 泰十郎殿
一金壹圓也	×神岡 藤一郎殿	一金五圓也	×吉住 保殿	一金壹圓也	×曾田 米三郎殿	一金壹圓也	×土田 淳之助殿
一金壹圓也	×吉川 佳一郎殿	一金參圓也	×吉村 一馬殿	一金貳圓也	×塚田 孝一殿	一金五圓也	×津田 博道殿
一金壹圓也	×吉池 省吾殿	一金壹圓也	×吉村 政行殿	一金五圓也	×辻 岡律殿	一金壹圓也	×辻井 禮太郎殿
一金壹圓也	×吉井 康次郎殿	一金貳圓也	×吉川 孝作殿	一金壹圓也	×坪田 本照殿	一金五圓也	×津川 恒殿
一金壹圓也	×吉田 菊市殿	一金壹圓也	×吉田 喜代太郎殿	一金貳圓也	×筒井 八百珠殿	一金壹圓也	×坪倉 利殿
一金壹圓也	×吉田 敬一殿	一金貳圓也	×竹内 三次殿	一金貳圓也	×中川 良忠殿	一金參圓也	×内藤 隆治殿
一金壹圓也	×高橋 秀殿	一金參圓也	×武田 正壽殿	一金壹圓也	×中山 靜二殿	一金壹圓也	×中林 清右衛門殿
一金貳圓也	×高櫻 龍太郎殿	一金貳圓也	×田中 一次郎殿	一金壹圓也	×内藤 頼一殿	一金壹圓也	×那谷 與一殿

一金壹圓也	×中曾根包吉殿	一金貳圓也	×中川幸庵殿	一金參圓也	小田切良太郎殿	一金壹圓也	大島重雄殿
一金壹圓也	中村左吉郎殿	一金壹圓也	中村義忠殿	一金壹圓也	太田長作殿	一金壹圓也	×大桑松三郎殿
一金壹圓也	內藤榮治殿	一金壹圓也	×中田義介殿	一金壹圓也	×折谷友次郎殿	一金貳圓也	×大原米次郎殿
一金參圓也	×中田秀貞殿	一金壹圓也	×中西要殿	一金五圓也	小川爲吉殿	一金貳圓也	小山龍德殿
一金壹圓也	×中村文雄殿	一金五圓也	×長澤安弘殿	一金壹圓也	大中貞治郎殿	一金壹圓也	太田卯三郎殿
一金壹圓也	×中谷豐充殿	一金壹圓也	內藤重孝殿	一金壹圓也	×長村吉太殿	一金貳圓也	×大岸源四郎殿
一金壹圓也	×中堀孫一殿	一金貳圓也	×中野玄次殿	一金貳圓也	×大澤五月殿	一金貳圓也	×太田他計作殿
一金壹圓也	長久開一郎殿	一金壹圓也	×長岡德之丞殿	一金壹圓也	尾島政憲殿	一金壹圓也	×大屋保治殿
一金貳圓也	×長田敏殿	一金壹圓也	內藤得之助殿	一金五圓也	×雄谷助次郎殿	一金拾圓也	×雄谷助夫殿
一金壹圓也	×成田成治殿	一金貳圓也	×中西島吉殿	一金五圓也	岡本三作殿	一金壹圓也	×沖玄仙殿
一金壹圓也	長井運男殿	一金貳圓也	×南部健一殿	一金五圓也	×岡田剛吉殿	一金壹圓也	×太田精一殿
一金壹圓也	×中山甲五郎殿	一金壹圓五拾錢也	×中村喜太郎殿	一金壹圓也	×大坪武之助殿	一金壹圓也	×太田和夫殿
一金貳圓也	村松貞治殿	一金壹圓也	村本笹次郎殿	一金壹圓也	×太田外茂次殿	一金壹圓也	×逢坂己一郎殿
一金壹圓也	村松純吉殿	一金壹圓也	村田金太郎殿	一金壹圓也	岡村晉殿	一金貳圓也	岡島敬治殿
一金壹圓也	村上準次郎殿	一金參圓也	×村山三男三郎殿	一金壹圓也	大橋豐殿	一金五圓也	×忍久保半次郎殿
一金壹圓也	×上野辰太郎殿	一金參圓也	×浦井鎌一殿	一金貳圓也	×大蕨關重殿	一金壹圓也	×大川茂作殿
一金壹圓也	×上村喜太郎殿	一金壹圓也	×宇佐美保之殿	一金壹圓也	×大城喜太郎殿	一金貳圓也	×大木則雄殿
一金壹圓也	×上原菊之助殿	一金參圓也	×上田計二殿	一金壹圓也	小野澤庄桂殿	一金貳圓也	岡本實太郎殿
一金參圓也	牛塚榮太郎殿	一金壹圓也	×上木隆基殿	一金壹圓也	×大谷正信殿	一金貳圓也	×黑田小太郎殿
一金壹圓五拾錢也	×上原成之殿	一金壹圓也	×植木信親殿	一金壹圓也	×栗山光太郎殿	一金六圓也	×桑原才殿
一金壹圓也	×字賀治元造殿	一金壹圓也	×浦晴二殿	一金貳圓也	×熊西中藏殿	一金壹圓也	×桑原郁三殿
一金七圓也	上野善造殿	一金壹圓也	字野正殿	一金貳圓也	×日下部留藏殿	一金壹圓也	×窪美昌保殿
一金壹圓也	×野坂賢藏殿	一金壹圓也	×熊木場興三吉殿	一金貳圓也	久保田保治殿	一金壹圓也	×熊木勘治殿
一金壹圓也	×野上初三郎殿	一金參圓也	×野田忠廣殿	一金壹圓也	×黑木彌一殿	一金壹圓也	×寬永義長殿
一金壹圓也	×織田他家男殿	一金貳圓也	×小原軍三殿	一金壹圓也	×桑原益方殿	一金壹圓也	×黑田道純殿
一金壹圓也	×太田尙男殿	一金貳圓也	×奥山義盛殿	一金壹圓也	×山碓內藏三殿	一金壹圓也	×山本傳三郎殿

一金壹圓也	×山田孝太郎殿	一金壹圓也	山田謙次殿	一金五圓也	×武藤義基殿	一金貳圓也	藤井溫良殿
一金壹圓也	山口茂太郎殿	一金壹圓也	×山口作郎殿	一金五圓也	×深美貞之助殿	一金貳圓也	藤井升義殿
一金參圓也	×八島改市郎殿	一金貳圓也	山田義忠殿	一金壹圓也	古谷強殿	一金五圓也	藤井伊之吉殿
一金壹圓也	山口登殿	一金壹圓也	山上岩雄殿	一金壹圓也	深谷藤市殿	一金壹圓也	×近藤時男殿
一金壹圓也	八波則吉殿	一金壹圓也	×山口敏雄殿	一金壹圓也	×越村甚次郎殿	一金貳圓也	×近藤清吾殿
一金壹圓也	山田岩次郎殿	一金貳圓也	×八木繁四郎殿	一金壹圓也	子安賴義殿	一金參圓也	×小島顯治殿
一金壹圓也	×山本一平殿	一金壹圓也	×山崎清吉殿	一金壹圓也	越田信吉殿	一金壹圓也	×小出伊勢治殿
一金貳圓也	山田忠元殿	一金壹圓也	×山内順治殿	一金壹圓也	駒井德太郎殿	一金貳圓也	×近藤節藏殿
一金壹圓也	矢原準一殿	一金壹圓也	山科他喜男殿	一金貳圓也	小林茂樹殿	一金壹圓也	×小西俊三殿
一金壹圓也	八島爲晴殿	一金五圓也	×山崎重治殿	一金壹圓也	×小池亮琢殿	一金貳圓也	×小杉時男殿
一金貳圓也	松江意之殿	一金五圓也	×松原三郎殿	一金貳圓也	×櫛田乙松殿	一金壹圓也	×駒田作之進殿
一金貳圓也	眞澤七三郎殿	一金壹圓也	×松井清輝殿	一金參圓也	×兒島亮吉殿	一金參圓也	小倉加一殿
一金壹圓也	×松本乙男殿	一金貳圓也	萬田亞雄殿	一金壹圓也	小島達三殿	一金參圓也	×小池才一殿
一金壹圓也	松澤堅二殿	一金壹圓也	松田外次郎殿	一金貳圓也	鮎屋京次郎殿	一金壹圓也	江村研正殿
一金壹圓也	眞館修平殿	一金壹圓也	松田正二殿	一金壹圓也	有居義敷殿	一金壹圓也	×青木他吉郎殿
一金壹圓也	松生哲良殿	一金壹圓也	松田準殿	一金參圓也	淺井協殿	一金壹圓也	×足立捨次郎殿
一金壹圓也	增井榮太郎殿	一金壹圓也	×松田隆殿	一金參圓也	赤土亮殿	一金五圓也	赤井直好殿
一金壹圓也	松崎源次郎殿	一金壹圓也	×丸山六郎殿	一金壹圓也	×阿波加蕃殿	一金五圓也	安達信彦殿
一金壹圓也	牧良一殿	一金五圓也	×松村四郎殿	一金壹圓也	天野隆義殿	一金壹圓也	朝山豐太郎殿
一金壹圓也	×松下嘉右衛門殿	一金壹圓也	×松村魁殿	一金貳圓也	×赤尾驥三殿	一金壹圓也	秋山八百藏殿
一金壹圓也	×馬淵眞澄殿	一金壹圓也	×松本桃道殿	一金壹圓也	×荒木榮三郎殿	一金壹圓也	×淺井泰殿
一金壹圓也	松村喜一殿	一金貳圓也	增田貞吉殿	一金壹圓也	×青木正枝殿	一金參圓也	荒木謙造殿
一金貳圓也	馬庭駿一郎殿	一金貳圓也	松田研吉殿	一金拾圓也	×佐崎伊久殿	一金壹圓也	×淺井貞準殿
一金壹圓也	×增田悅殿	一金壹圓也	牧眞武殿	一金貳圓也	×佐伯義久殿	一金壹圓也	佐々木純一郎殿
一金參圓也	×古川市次郎殿	一金壹圓也	×福田壽殿	一金壹圓也	榑原久殿	一金壹圓也	坂井清殿
一金壹圓五拾錢也	藤井一雄殿	一金貳圓也	×深瀬鴻堂殿	一金壹圓也		一金壹圓也	佐川忠茂殿

一金貳圓也	佐竹清吉殿	一金壹圓也	齊木一雄殿	一金貳圓也	清水衛殿	一金壹圓也	重光茂殿
一金貳圓也	佐々章智殿	一金貳圓也	坂井茂殿	一金壹圓也	城石健治殿	一金壹圓也	柴野順吾殿
一金參圓也	佐藤邦次郎殿	一金貳圓也	齋藤房治殿	一金拾圓也	下平用彩殿	一金壹圓也	柴田勝央殿
一金貳圓也	齋藤友一殿	一金壹圓也	齋藤賢德殿	一金貳圓五拾錢也	島田喜一殿	一金貳圓也	白井巽殿
一金貳圓也	齋藤幸作殿	一金壹圓也	崎達郎殿	一金壹圓也	重本儀助殿	一金貳圓也	澁谷孝慶殿
一金拾圓也	坂本勇五郎殿	一金貳圓也	澤崎寛制殿	一金壹圓也	廣野了太郎殿	一金壹圓也	平泉泰雄殿
一金壹圓也	酒井利勝殿	一金壹圓也	佐藤進殿	一金五圓也	廣瀬康雄殿	一金貳圓也	森田耕一殿
一金壹圓也	坂上作平殿	一金貳圓也	澤田定信殿	一金五圓也	諸角友平殿	一金壹圓也	森部令次殿
一金壹圓也	澤村恒松殿	一金壹圓也	西東榮次郎殿	一金壹圓也	本正生殿	一金貳圓也	森田齊次殿
一金貳圓也	榊原光之助殿	一金壹圓也	佐藤武殿	一金壹圓也	茂居政治殿	一金五圓也	森島彦夫殿
一金壹圓也	齋藤義雄殿	一金壹圓也	喜多禎次殿	一金參圓也	諸橋善三郎殿	一金貳圓也	錢崇潤殿
一金貳圓也	喜多養元殿	一金壹圓五拾錢也	北川友次郎殿	一金貳圓也	關川潤吉殿	一金貳圓也	關川玄俊殿
一金參圓也	木村孝藏殿	一金貳圓也	岸重次殿	一金壹圓也	關根平殿	一金貳圓也	關川敬治殿
一金壹圓也	北野恒夫殿	一金壹圓也	木根淵清殿	一金參圓也	鈴木留次殿	一金拾圓也	杉村可宗殿
一金壹圓也	北川文松殿	一金壹圓也	木越豐松殿	一金參圓也	杉本捨六殿	一金五圓也	杉本兵太殿
一金壹圓也	湯淺富尙殿	一金貳圓也	三木榮末殿	一金壹圓也	鈴木伊作殿	一金壹圓也	鈴木俊定殿
一金壹圓也	水島時男殿	一金貳圓也	宮島健治殿	一金貳圓也	駿河尙庸殿	一金貳圓也	杉本恒治殿
一金壹圓也	宮川外次郎殿	一金壹圓也	三好壽一郎殿	一金壹圓也	洲崎永之助殿	一金貳圓也	鈴木啓一郎殿
一金參圓也	水口順殿	一金貳圓也	三崎吉太郎殿	一金壹圓也	杉江鉄男殿	一金貳圓也	杉下尙一殿
一金壹圓也	宮川熊三郎殿	一金貳圓也	三輪春太郎殿	一金壹圓也	杉部多米吉殿	一金壹圓也	杉下孝造殿
一金貳圓也	水越國治殿	一金壹圓也	三森定吉殿	計金八百九拾貳圓也			
一金五圓也	三輪徳寛殿	一金貳圓也	水谷浩一殿	累計金壹千六百八拾參圓五拾錢也			
一金參圓也	南大曹殿	一金壹圓也	宮地通夫殿	▲第一回申込報告後現金領収ノ分			
一金五圓也	進士武群殿	一金五圓也	新津保清太郎殿	一金拾圓也	鴨脚光榮殿	一金貳圓也	稻村大助殿
一金壹圓也	塩村和喜男殿	一金壹圓也	庄田喜太郎殿	一金貳圓也	石川喜直殿	一金壹圓也	岩津知造殿
一金參圓也	島村源太郎殿	一金貳圓也	志村達雄殿	一金貳圓也	橋本監次郎殿	一金拾圓也	長谷川徳三殿

一 金壹圓也	萩野茂次郎殿	一 金貳圓也	堀 鏡之丞殿	一 金壹圓也	後藤藏四郎殿	一 金五圓也	江馬 賤男殿
一 金壹圓也	時國恒夫殿	一 金壹圓也	戶田伊代治殿	一 金貳圓也	天野長重殿	一 金壹圓也	阿部 慧治郎殿
一 金壹圓也	和田文右衛門殿	一 金貳圓也	河合忠次殿	一 金壹圓也	青木國三郎殿	一 金壹圓也	佐竹 秀一殿
一 金壹圓也	加藤 敏作殿	一 金貳圓也	吉見通義殿	一 金壹圓也	佐々木茂樹殿	一 金貳圓也	齋藤 金則殿
一 金五圓也	竹多乙三郎殿	一 金拾圓也	谷 乙四郎殿	一 金壹圓也	笹岡芳名殿	一 金壹圓也	北村 誠吾殿
一 金參圓也	谷 り殿	一 金壹圓也	田中 信一殿	一 金貳圓也	宮崎 繁殿	一 金壹圓也	宮城 篤珍殿
一 金參圓也	田代保二殿	一 金壹圓也	田邊 鼎介殿	一 金壹圓也	三輪彌三郎殿	一 金貳圓也	島 誠郁殿
一 金參圓也	高野政二殿	一 金貳圓也	塚本 秀十郎殿	一 金貳圓也	七五三龜吉殿	一 金壹圓也	清水 亮殿
一 金參圓也	塚本 富彦殿	一 金貳圓也	並河 正雄殿	一 金壹圓也	重田 稔殿	一 金壹圓也	敷波 重治郎殿
一 金壹圓也	中村 芳雄殿	一 金壹圓也	村木 維夫殿	一 金壹圓也	平野 郷治郎殿	一 金參圓也	飛見 丈繁殿
一 金壹圓也	村田 太次郎殿	一 金七圓也	上原 秀三殿	一 金壹圓也	廣瀬 竹次郎殿	一 金壹圓也	廣田 豐吉殿
一 金五圓也	野島 茄三郎殿	一 金參圓也	野嶽 利七殿	一 金壹圓也	瀨尾 順四郎殿	一 金參圓也	杉山 貞二殿
一 金貳圓也	沖野 瀨一郎殿	一 金貳圓也	大岸 鹿殿	一 金貳圓也	鈴木 秀英殿	一 金壹圓也	鈴木 正孝殿
一 金壹圓也	岡部 博殿	一 金壹圓也	太田 喜作殿	一 金壹圓也	洲崎 爲治郎殿	一 金壹圓也	鈴木 於菟吉殿
一 金壹圓也	岡部 幸一郎殿	一 金壹圓也	小野 醇吉殿	一 金壹圓五拾錢也	鈴木 外男殿		
一 金壹圓也	大瀬 謹一殿	一 金五圓也	織田 信義殿				
一 金參圓也	長田 八三郎殿	一 金參圓也	倉重 吉次郎殿				
一 金貳圓也	久保井 末造殿	一 金壹圓也	栗林 信殿				
一 金貳圓也	久保 猪之吉殿	一 金五圓也	矢吹 清殿				
一 金貳圓也	馬 詰定 衛殿	一 金壹圓也	松田 菊治殿				
一 金貳圓也	松 尾 整殿	一 金貳圓也	松田 龜太郎殿				
一 金五圓也	古田 錦榮殿	一 金壹圓也	富久尾 湊殿				
一 金拾圓也	舟岡 英之助殿	一 金壹圓也	藤 浪 謙殿				
一 金貳圓也	福岡 賄吉殿	一 金壹圓也	深澤 忠義殿				
一 金參圓也	小泉 義久殿	一 金壹圓也	後藤 佐吉殿				
一 金壹圓也	小林 良二殿	一 金壹圓也	小島 壽三殿				

山崎教授在職貳拾年祝賀會寄附金第一回報告正誤表

頁	行	誤	正		
三七	二	金壹圓也	池田 護吉殿	金壹圓也	池田 護吉殿
全	三	金壹圓也	稻村 大助殿	金貳圓也	稻村 大助殿
全	二五	金參圓也	堀 鏡之丞殿	金貳圓也	堀 鏡之丞殿
三九	二	金壹圓也	桑柳 直殿	金壹圓也	桑折 直殿
全	一四	金貳圓也	眞下 誠殿	全部削除	
四〇	一	金壹圓也	福岡 喜洋殿	金參圓也	福岡 喜洋殿
全	九	金五圓也	三宅 成重殿	金五圓也	三宅 幾重殿

表 四 金壹圓也 ×鈴木 忍殿 金壹圓也 鈴木 忍殿
 金參圓也 栖田 衛治殿 金貳圓也 栖田 衛治殿
 合 計 金七百九拾五圓五拾錢也 金七百九拾壹圓五拾錢也

●山崎教授在職貳拾年祝賀會寄附金第三回報告

(二月十八日迄ノ分×印ハ現金領収済ノ分)

金 額	氏 名	金 額	氏 名
一金貳圓也	×今 越 理 作殿	一金貳圓也	×石 崎 謙 吉殿
一金參圓也	×石 崎 治 郎殿	一金壹圓也	×井 原 悟 殿
一金參圓也	×池 田 秀 雄殿	一金壹圓也	×石 原 喜 久 太 郎 殿
一金壹圓也	×秦 正 胤殿	一金貳圓也	×本 田 三 郎 殿
一金五圓也	×北 條 時 敬殿	一金壹圓也	×富 野 佳 照殿
一金貳圓也	富 澤 外 次 郎 殿	一金壹圓也	×德 茂 隆 殿
一金壹圓五拾錢也	×加 藤 富 治 郎 殿	一金拾圓也	×吉 尾 開 道 殿
一金參圓也	×吉 田 圓 磨殿	一金壹圓也	×竹 中 成 憲殿
一金壹圓也	×田 島 耕 平殿	一金壹圓也	橋 良 玄 殿
一金壹圓也	×田 上 清 貞殿	一金壹圓也	×高 田 信 弘殿
一金壹圓也	×土 屋 重 俊殿	一金貳圓也	塚 本 政 次 殿
一金壹圓也	×中 西 與 三 次 郎 殿	一金五圓也	村 上 麻 次 郎 殿
一金參圓也	×村 山 良 平殿	一金壹圓也	×ウカルフアト殿
一金壹圓也	×上 野 忠 殿	一金壹圓也	×野 村 行 一 殿
一金壹圓五拾錢也	×岡 田 新 雄殿	一金壹圓也	大 河 原 保 智 殿
一金壹圓也	×窪 美 一 久殿	一金壹圓也	松 井 宣 正 殿
一金貳圓也	增 田 稔 殿	一金貳圓也	×武 藤 銀 太 郎 殿
一金壹圓也	×藤 田 藤 右 衛 門 殿	一金壹圓也	古 屋 榮 治 殿

一金貳圓也	×藤 岡 孫 喜 殿	一金參圓也	×小 林 啓 庵 殿
一金壹圓也	×小 西 重 直 殿	一金貳圓也	×越 野 義 三 郎 殿
一金壹圓也	小 堀 茂 雄 殿	一金貳圓也	×小 池 勇 助 殿
一金貳圓也	×江 藤 幹 殿	一金壹圓也	×天 野 幸 太 郎 殿
一金參圓也	旭 憲 吉 殿	一金壹圓也	×澤 田 辰 造 殿
一金貳圓也	佐 々 木 達 殿	一金壹圓也	佐 々 木 文 三 殿
一金壹圓也	×桐 田 健 三 郎 殿	一金壹圓也	×北 村 祐 壽 殿
一金壹圓也	×溝 口 成 章 殿	一金貳圓也	×三 上 儉 治 殿
一金參圓也	×神 保 正 長 殿	一金拾圓也	×樋 口 平 次 殿
一金壹圓五拾錢也	×久 野 龜 太 郎 殿	一金壹圓也	×本 仙 太 郎 殿
一金參圓也	鈴 木 重 吉 殿	一金壹圓也	×須 田 嘉 三 郎 殿
計 金 壹 百 拾 四 圓 五 拾 錢 也			
累 計 金 壹 千 七 百 九 拾 八 圓 也			

▲第二回申込報告後現金領収ノ分

一金壹圓也	石 譯 太 作 殿	一金五圓也	今 村 鉄 夫 殿
一金壹圓也	石 川 精 次 殿	一金壹圓也	岩 崎 勝 治 殿
一金貳圓也	石 橋 四 郎 殿	一金貳圓也	石 原 久 殿
一金壹圓也	石 田 宏 殿	一金五圓也	橋 本 喜 久 三 殿
一金壹圓也	馬 場 稠 殿	一金壹圓也	原 田 正 廣 殿
一金參圓也	長 谷 川 淳 明 殿	一金壹圓也	原 田 定 次 殿
一金壹圓五拾錢也	原 伊 之 殿	一金壹圓也	荻 野 鶴 治 殿
一金壹圓也	丹 羽 直 殿	一金五圓也	西 原 愛 太 郎 殿
一金壹圓也	西 村 貞 俊 殿	一金五圓也	本 田 繁 藏 殿
一金壹圓也	土 井 榮 幸 殿	一金貳圓也	堂 坂 友 作 殿
一金壹圓也	加 瀬 順 之 助 殿	一金參圓也	河 合 利 正 殿
一金壹圓也	加 藤 錠 吉 殿	一金參圓也	風 野 信 介 殿

一金壹圓也	開發仁十郎殿	一金壹圓也	高橋隆三殿	一金壹圓也
一金壹圓也	田山退一殿	一金壹圓也	高桑勇次郎殿	一金壹圓也
一金參圓也	武田正壽殿	一金壹圓也	高澤冠一殿	一金壹圓也
一金壹圓也	高橋周而殿	一金貳圓也	谷龍藏殿	一金壹圓也
一金壹圓也	竹村茂三殿	一金參圓也	津田信吉殿	一金貳圓也
一金五圓也	津田博道殿	一金五圓也	辻岡律殿	一金貳圓也
一金壹圓也	中島儀一郎殿	一金參圓也	中村了殿	一金壹圓也
一金壹圓也	內藤重孝殿	一金壹圓也	內藤得之助殿	一金貳圓也
一金壹圓也	長井運男殿	一金貳圓也	村松貞治殿	一金貳圓也
一金壹圓也	村松純吉殿	一金貳圓也	上阪政太郎殿	一金貳圓也
一金壹圓也	魚住以作殿	一金參圓也	大瀧經殿	以
一金壹圓也	大野幸重殿	一金參圓也	小田切良太郎殿	上
一金壹圓也	大島重雄殿	一金貳圓也	小山龍德殿	
一金壹圓也	岡村晋殿	一金貳圓也	岡島敬治殿	
一金貳圓也	岡本實太郎殿	一金壹圓也	大谷正信殿	
一金壹圓也	黒木彌一殿	一金壹圓也	八波則吉殿	
一金壹圓也	山科他喜雄殿	一金壹圓也	八島爲晴殿	
一金壹圓也	松田茂殿	一金壹圓也	松崎清博殿	
一金壹圓也	松田外次郎殿	一金壹圓也	眞館修平殿	
一金壹圓也	松田準殿	一金壹圓也	牧良一殿	
一金貳圓也	増田貞吉殿	一金壹圓也	牧眞武殿	
一金壹圓也	深町正道殿	一金貳圓也	深澤治三郎殿	
一金壹圓也	福里次吉殿	一金壹圓也	古谷強殿	
一金壹圓也	深谷藤市殿	一金貳圓也	國分金城殿	
一金壹圓也	駒井德太郎殿	一金五圓也	赤倉喜久雄殿	
一金壹圓也	荒井梅子殿	一金壹圓也	朝倉重敏殿	

●上田教授在職紀念品贈呈釀金第三回報告

金額	氏名	金額	氏名
一金參圓也	下平用彩殿	一金壹圓也	田上清貞殿
一金貳圓也	井原悟殿	一金壹圓也	北川健三殿
一金貳圓也	安田則人殿	一金壹圓也	武田正壽殿
一金貳圓也	國分金城殿	一金參圓也	林篤殿
一金壹圓也	石川精一殿	一金壹圓也	石川寛二殿
一金壹圓也	小原隼三殿	一金壹圓也	田中一次郎殿
一金壹圓也	那谷典一殿	一金壹圓也	野坂賢三殿
一金壹圓也	越村甚次郎殿	一金壹圓也	近藤清吾殿
一金壹圓也	近藤時男殿	一金貳圓也	佐崎伊久殿
一金貳圓也	樋口平次殿	一金壹圓也	太田尙男殿
一金壹圓也	赤尾肇三殿	一金壹圓也	奥山正雄殿
一金壹圓也	安達敬智殿	一金壹圓也	芥川信殿
一金壹圓也	赤井直好殿	一金壹圓也	荒木謙造殿
一金壹圓也	佐藤邦次郎殿	一金壹圓也	木下克雄殿
一金壹圓也	水口哲三殿	一金壹圓也	三好壽一郎殿
一金貳圓也	水越國治殿	一金參圓也	南大曹殿
一金貳圓也	島村伊之助殿	一金五圓也	柴山金雄殿
一金壹圓也	森部令次殿	一金壹圓也	本正生殿
一金貳圓也	關川潤吉殿	一金貳圓也	關川玄俊殿
一金貳圓也	栖田衛治殿	一金參圓也	鈴木留次殿
一金貳圓也	鈴木啓一郎殿	一金壹圓也	杉江鉄男殿

一金壹圓也	河合忠次殿	一金壹圓也	影山清美殿
一金壹圓也	北村一清殿	一金壹圓也	小泉義久殿
一金壹圓也	小池勇次殿	一金壹圓也	齋藤祐男殿
一金壹圓也	須田嘉三郎殿	一金壹圓也	杉本恒次殿
一金壹圓也	高伊三郎殿	一金壹圓也	高橋重二殿
一金壹圓也	高澤冠一殿	一金壹圓也	田山退一殿
一金壹圓也	高田信弘殿	一金壹圓也	田島耕平殿
一金壹圓也	土屋重俊殿	一金壹圓也	堂阪友作殿
一金壹圓五拾錢也	內藤三太郎殿	一金壹圓也	丹羽直殿
一金貳圓也	春田久太郎殿	一金貳圓也	花岡佐太郎殿
一金壹圓也	東義雄殿	一金壹圓也	藤田藤太郎殿
一金壹圓也	村松純吉殿	一金壹圓也	村山真平殿
一金壹圓也	本仙太郎殿	一金壹圓也	本正生殿
一金壹圓也	山田有登殿	一金壹圓也	高橋隆三殿
一金參圓也	田尻秀雄殿	一金參圓也	石田宏殿
一金壹圓也	黒木彌一殿	一金壹圓也	大川茂作殿
一金壹圓也	中曾根包吉殿	一金壹圓也	佐伯義久殿
一金壹圓也	眞下誠殿	一金壹圓也	水越國治殿
一金壹圓也	岩崎勝治殿	一金壹圓也	神田興敬殿
一金壹圓也	柏木幸助殿		

小計金七拾七圓五拾錢也
 總計金五百貳拾八圓〇壹錢也

● 廣 告

謹啓餘寒の候益々御清榮奉賀上候陳者今般迂生在職記念として貴重なる記念品御惠投に預り御厚情難有正に拜受仕候右御芳情を籠めたる記念品は永く家寶として愛用仕り尙將來は之を子孫に傳へ厚く保存爲致可申候右謹むて御禮申述候早々敬具

大正五年二月

佐々木 達拜

金澤醫學專門學校卒業生殿
 金澤醫學專門學校在學生殿

佐々木教授在職紀念品贈呈釀金決算報告

收 入

一金貳百八拾貳圓參拾六錢

一金貳百九拾六圓五拾壹錢

合計金五百七拾八圓八拾七錢

現金ニテ 利息共
 口座ニテ

支 出

一金參百七拾壹圓也

一金八拾八圓五拾錢

一金四拾貳圓也

一金七拾參圓九拾七錢

一金參圓四拾錢

合計金五百七拾八圓八拾七錢

白金製時計壹個白金鎖及磁石付
 金屏風一雙
 油繪二葉額縁共
 郵税、印刷費、口座集金
 郵便手数料及其他ノ雜費
 現金ニテ贈呈

右報告候也

大正五年二月

委 員

金子博士在職參拾年祝賀會趣意書

金澤醫學專門學校教授醫學博士金子治郎氏ハ明治十八年十二月大阪醫學教授ニ任ゼラレ次デ明治廿九年八月金澤醫學專門學校教授ニ轉任セラレ今日ニ至ル迄前後參拾有餘年間子弟ヲ薰陶シテ倦マズ學理ヲ研鑽シテ意ラズ學德共ニ中外ノ瞻望スル所ナリ茲ニ生等相計リ來ル十月ヲ期シ左記ノ方法ニヨリテ在職參拾年祝賀式ヲ舉行シ且銅像ヲ建設シテ氏ノ高風ヲ永ヘニ傳ヘント欲ス希クハ大方有志ノ諸君奮テ御賛同アラシム事ヲ

一、金子博士ノ銅像ヲ本校内ニ建設シ(銅像建設費ハ大凡貳千圓ノ見込)且紀念品ヲ大阪醫科大學ニ寄附スルコト

二、大正五年十月中ニ祝賀式ヲ行ヒ教授及御家族ヲ招待シ且銅像除幕式ヲ舉行ス

式場 金澤醫學專門學校大講堂
期日 確定次第御通知スベシ

三、右費用ニ充テン爲メ普ク寄附金ヲ募集ス其金額一口壹圓以上ノコト

四、寄附金申込 大正五年四月十五日迄ニ金澤醫學專門學校解剖學教室金子博士在職參拾年祝賀會事務所宛申込ノコト

五、寄附金拂込 大正五年四月三十日迄ニ振替口座大阪參〇〇六七番金澤醫學專門學校佐口榮宛拂込ノコト

六、領收 寄附者ニハ領收書ヲ發送ス尙芳名簿ハ之レヲ金子博士ニ呈シ且ツ十全會誌上ニ發表ス

七、銅像設計其他一切ノ事務ハ發起人中委員ニ一任スルコト
大正五年二月

發起人 (イロハ順〇印ハ委員)

- | | | | | |
|-------|-------|-------|--------|-------|
| 伊藤 又吉 | 井上 元 | 今越 理作 | 池田 藁吉 | 石譯 大作 |
| 石川 寛二 | 石川 喜直 | 石川 精一 | 石黒 四郎 | 石坂 伸吉 |
| 石森 國臣 | 飯森益太郎 | 林 常雄 | 林 篤 | 林 喜久松 |
| 濱地藤太郎 | 橋本監次郎 | 西原愛太郎 | 堀見 克禮 | 細田 榮 |
| 本田 三郎 | 時國 恒夫 | 富田 精一 | 田肥 章 | 千葉 玄也 |
| 沼田 準三 | 小幡 龜壽 | 岡島 敬治 | 岡本規矩男 | 岡部 博 |
| 岡田 剛吉 | 荻野 純三 | 表 宣明 | 若林定次郎 | 若林善太郎 |
| 沖野彌一郎 | 鷺山 謙吉 | 加藤 慶三 | 川原 武夫 | 加藤 徹志 |
| 和田 豐種 | 加藤誠四郎 | 片瀨 芳長 | 川原 信智 | 河野 寛 |
| 加藤 靜雄 | 川島 俊 | 吉村 淡 | 影山 清美 | 河野 徹志 |
| 河崎 有作 | 吉尾 開道 | 吉村 一馬 | 吉野 慶 | 梶川 保二 |
| 米村吉太郎 | 高安 右人 | 高澤 冠一 | 田中一次郎 | 田中 信一 |
| 高橋 直作 | 津川 恒 | 塚谷 政次 | 辻本辰之助 | 村上 庄太 |
| 竹多乙三郎 | 中野鑄太郎 | 那谷 與一 | 並河 正雄 | 村上 庄太 |
| 長雄 勝馬 | 上野辰太郎 | 野村 亮吉 | 能木場與三吉 | 久保 武 |
| 上田 計二 | 窪美 夏 | 栗田 昇 | 栗山光太郎 | 熊澤 清隆 |
| 窪田 小市 | 山崎 重治 | 山本兵三郎 | 山本 直枝 | 松王 數男 |
| 山田 義忠 | 松田 茂 | 松井 清輝 | 松井 宣正 | 馬詰 定衛 |
| 松田外次郎 | 眞澤 眞一 | 正井 保良 | 藤岡 孫喜 | 深美貞之助 |
| 眞澤 眞一 | 福士 政一 | 福安 賴義 | 小島 義久 | 小西 俊三 |
| 福岡 喜洋 | 子安 賴義 | 青木 義枝 | 近藤 時男 | 近藤 清吉 |
| 國分 金城 | 寺本 義一 | 青木 義枝 | 安藤 友直 | 芥川 信 |
| 江藤 潤一 | 寺本 義一 | 青木 義枝 | 安藤 友直 | 芥川 信 |
| 淺井 眞準 | 信次 榮 | 佐伯 義久 | 佐藤邦次郎 | 酒井 政吉 |
| 佐川 秀一 | 佐口 榮 | 北川 健三 | 道本 教二 | 宮田 篤郎 |
| 北 豐吉 | 北川 勝末 | 北川 健三 | 道本 教二 | 宮田 篤郎 |
| 三木 三郎 | 島田吉三郎 | 清水 順吾 | 樋口 平次 | 鹽村和喜男 |
| 島 誠郁 | 諸角 友平 | 森田 隼平 | 森田 齊次 | 森見 喜男 |
| 諸橋善三郎 | 須藤 憲三 | 鈴木寛之助 | 學生 一同 | 彦夫 |

祝賀會委員長 下平 用彩
同 副委員長 櫻根 孝之進
同 上松 原三郎